

JOMF 派遣医師便り (2015. 3)

◆ジャカルタ◆

デング熱

JJC 医療相談室

原 稔

昨年は日本でデング熱が発生して騒ぎになりましたが、インドネシアの状況はどうでしょうか。

保健省の発表によりますと、2014年は12月中旬までに71668例の感染が確認され、641例が死亡しています。2013年は112511例中871例が死亡です。

そして、今年に入り、東ジャワ州では1054人の感染と25人の死亡が確認されたため、非常事態宣言が発令されました。

これらの数字を見て気づくのが、その致死率の高さです。特に東ジャワ州のデータだと、致死率は約2.4%にもなります。当然この数字は日本人社会にはあてはまりません。真つ当な医療を受けることができれば、死に至ることはごく稀です（より重症であるデング出血熱に限っても、致死率は1%以下）。実際に、ジャカルタへ赴任以来、デング熱で亡くなった日本人の話は聞いたことがありません。インドネシア人も富裕層に限定すれば、その致死率は日本人と変わらないでしょう。

従って、上記の数字はインドネシアの医療環境の悪さと貧富間格差の大きさを示していると言えます。未確認の感染者が多数いるのでは？という考え方もできますが、それであつても根は同じでしょう。

州政府は、蚊の発生対策の呼びかけとともに、発熱等の症状が出た際の医療機関受診も呼びかけています。